

文久元年酉年

魯夷對列

北坊

江戸東禪寺東人夜討

水戸表風聞

航泊終夜雜問答

亞墨利加漂流之記

土州宇佐浦鯉船天保十一年正月五日彼浦出帆

船頭傳蔵 水主重助 同 五右衛門

右年齡 陽國之時之者也 即吾嘉永五壬子ノ年之事也

右之者 土州宇佐浦鯉船天保十一年正月五日彼浦出帆

右之者 土州宇佐浦鯉船天保十一年正月五日彼浦出帆

亞墨利加漂流記

土州宇佐浦鯉船天保十一年正月五日彼浦出帆

船頭 傳蔵 四十九才 水主 重助 同 五右衛門 此三人ハ兄弟

水主虎右衛門三十八才 同万次郎 廿六才

右年齡ハ帰国之時之也 即吾嘉永五壬子ノ年之事也

万次郎ハ八幡郡中濱之者也

右之者共前十三年頃正月五日為漁獵之乗船ヲ以宇

佐浦を出帆五日六日ハハエ繩と言ハをして居船南海ニ

七日ニ至朝之内風強ハエ繩桶三ツ迄流したるを二ツ迄

取上東之ゆはナニ漂い夫より舟ハ乾の方へ流され四艘共

ことく打損し只風ニ任せて流されり藤九郎ト云鳥

藤九郎・・・アホウドリの異称

海上二浮ふを見て舟一同中ハ此鳥の浮ハ國近き邊リニ
嶋有へし各心を付へしとて海上を見渡し候処果して
一ツの嶋有辛ふして此島を過すにふみたる所を
凡そその島を過すにふみたる所を過すにふみたる所を
一各々飢ニ臨也舟打破兎角働か成堅く岩ニ取付し候俟手
ニ流かふ海苔の類を取喰ひ候是ニ而其様思ひやるへし
其嶋食物なし右の藤九郎鳥巢をくひ居たるを打殺し
或ハ乾し又ハ生之俟ニ而汐ニもみて食す水無之を甚難
渋す漂着之砌水桶三ツ磯ニ寄たるを拾ひ取是より流るる
水を取て飲也其水も少ク日和續ク時ハ切候俟小便を手ニ溜
飲てかつを凌候が夫連も飲物少なければ小便至て少く成候也
磯の岩の穴有をみつけ住居とす東向也島之廻りた

海上二浮ふを見て舟一同中ハ此鳥の浮ハ國近き邊リニ
嶋有へし各心を付へしとて海上を見渡し候処果して
一ツの嶋有辛ふして此邊り近きニ舟寄けれ共岩石屏
風を立てたる如く舟を着へき所なく兎角こかる内々少し
平成處を目當ニ舟を着五人共上陸す是十三日四ツ時之事也
一各々飢ニ臨也舟打破兎角働か成堅く岩ニ取付し候俟手
ニ流かかふる海苔の類を取喰ひ候是ニ而其様思ひやるへし
其嶋食物なし右の藤九郎鳥巢をくひ居たるを打殺し
或ハ乾し又ハ生之俟ニ而汐ニもみて食す水無之を甚難
渋す漂着之砌水桶三ツ磯ニ寄たるを拾ひ取是より流るる
水を取て飲也其水も少ク日和續ク時ハ切候俟小便を手ニ溜
飲てかつを凌候が夫連も飲物少なければ小便至て少く成候也
磯の岩の穴有をみつけ住居とす東向也島之廻りた

[illegible]

□□杖を突黒檀の類にて製す 八ツ國大きサ

大概四国位之七嶋有て甚繁栄す此國を津とす

西洋より入船し日本の大阪の如し遊女町も有なり

件之鯨船此國江入津しアメリカ國より置所之タチヨテト申

役人二頼置鯨船ハ万次郎壺人を乗セツセソセト云所に

着船す是よりアメリカ國中船頭住居する地なり

万次郎の外四人ハタフクチヨチ之世話に成居たれ共言語

不通使者二朱判と寛永通宝ノ錢を出し此國の者成哉ト

仕方ス四人平伏しすれハ頓而日本とさとりし様子也

四人之者共タフリチヨチに渡世せん事を望む依之タフリチヨチ

之世話二而荷物日雇など勤といふ 八ツ國時候日本之

□□の如し年中羅紗一枚有て宜しといふ

如く家之戸を閉祭をなす是ハ六日世界之成就之
數ニ而其翌之七日ニ天神を祭る由也
食物は田芋定食也其中ニ麦は上食也米諸国より
積来れ共上品とせず魚類小鯛の類の邊り魚ハ日本
に無突機魚は日本ニ無之魚多し漁ニ甚不調法也
日本之海士の如き者海中ニ入て岩の底ニ居る 漸老ヲ取
家は古ヘハカヤフキなりしか五十年前よりアメリカより此國ヲ
開く時教て今日は板又は石ニ而ふく板囲の家ニ多し此家根
ふく石は湊口ニ大石有板の如くへきりを取てふくト云
寝る時戸棚の如くものゝ所江入て寝姿を人に見すること
嫌ふなり 時を告げるは港口ニ六貫目位之火炮を

(?祭力)

□ □之事はアメリカの教ニ而月の七日く日本元日之

如く家之戸を閉祭をなす是ハ六日世界之成就之

數ニ而其翌之七日ニ天神を祭る由也

食物は田芋定食也其中ニ麦は上食也米諸国より

積来れ共上品とせず魚類小鯛の類の邊り魚ハ日本

に無突機魚は日本ニ無之魚多し漁ニ甚不調法也

日本之海士の如き者海中ニ入て岩の底ニ居る 漸老ヲ取

家は古ヘハカヤフキなりしか五十年前よりアメリカより此國ヲ

開く時教て今日は板又は石ニ而ふく板囲の家ニ多し此家根

ふく石は湊口ニ大石有板の如くへきりを取てふくト云

寝る時戸棚の如くものゝ所江入て寝姿を人に見すること

嫌ふなり 時を告げるは港口ニ六貫目位之火炮を

居るを打候由 七嶋に一王有王死る時は棺ニ納め
土蔵の如き屋ニ入祭りをなす上を以て埋ますと云忌
中ニ笠を着る事日本ニ同し家老格は棺を不用下品ハ
火葬也棺は日本之製ニ似て外棺也足の方別而細し
傳蔵始三人は荷物畑作ノ日雇を成す重助は積氣之
由ニ而終ニ病死す諸芋を作事日本稻を植る如し
茎を切て植れハ根を生す肥ニ不及三人共家作し住
百姓業スルト云右三人彼國之役人ニ乞歸國致し度由
申入則役人之始終を聞鯨船ニ便を乞乗船す但し
虎右衛門ハ彼國ニ残る此世界の下を乗通てエソ地ニ至る
蝦夷人箒を甚用心す上陸すれハ悉く逃去り人影
□如し是悲なく再ハ鯨船に乗てハッ國に歸る此國

（二至て五カ）
□□□年也 万次郎事をアメリカ國着船の後
フイツヘル之世話ニ而日本寺院之如き家に至る手習学
問す後ニハ用夫抔して師匠江之礼并ニ書ヲ買申料高は
自身に働きからワイツヘルニハ食物之世話に成迄之事也
其中ニチイタイト師に付て学たる事六ヶ月程之事も有とぞ
亜米利加國政大極日本おなし十二ヶ条之法会付願承也
王は七人有此アメリカ國三十六ヶ國ニ成時候日本ニおなし
四時有風俗は八ッ國の如し王を國中之賢人撰て
一僕位ニテ至極輕き躰也 アメリカ國を近年 和蘭
世話ニ而開たる國ニ而返事も蘭ニ類ス年号は開ケテ
ヨリ只一ッ之年号ニ而何迄も通る事之由一ヶ年十二ヶ月
（本と同カ）
日□□□し正月規式ハなし

往○車に乗常ハ十六七人位之事也蒸氣船之如し火を以
 車を加ふ又蒸氣船も有といふ穴船は甚禁制ニ而
 當時是なし文字は二十六盤は角二製ス日本ト
 不同大數を積弁利とす人物駕籠寛仁ニテ
 惡をなさず人殺盜賊杯都而なし若適有ハ是ヲ
 知るニ法有而立所ニ捕るといふ 婚礼ハ縁組トテ日本
 之引鮑遣之如き式済ハ則其女ヲ連立物見遊山
 杯ニ出る常之事也婚禮ハ神ニ告て歸り夫婦トなり
 人情多嬌なれ共別は正しとぞ 麦之粉ニ玉子
 油塩ヲ入蒸たるを上品とス是ハ ハント云 上品の人に
 酒を不飲のむ共聊之事 下品之人飲事日本之如し
 釀□者嫌ふ是を賤しむ酒の品日本は惡し

往○車に乗常ハ十六七人位之事也蒸氣船之如し火を以
 車を加ふ又蒸氣船も有といふ穴船は甚禁制ニ而
 當時是なし文字は二十六盤は角二製ス日本ト
 不同大數を積弁利とす人物駕籠寛仁ニテ
 惡をなさず人殺盜賊杯都而なし若適有ハ是ヲ
 知るニ法有而立所ニ捕るといふ 婚礼ハ縁組トテ日本
 之引鮑遣之如き式済ハ則其女ヲ連立物見遊山
 杯ニ出る常之事也婚禮ハ神ニ告て歸り夫婦トなり
 人情多嬌なれ共別は正しとぞ 麦之粉ニ玉子
 油塩ヲ入蒸たるを上品とス是ハ ハント云 上品の人に
 酒を不飲のむ共聊之事 下品之人飲事日本之如し
 釀□者嫌ふ是を賤しむ酒の品日本は惡し

嬌(ヨウ)・・・たわむれる

釀(かもす)・・・穀類を麴にし酒などを造る

夫婦之情至て厚し家内睦しき事余國ニ類なし
近頃南アメリカ辺境之民之爭より合戦有北アメリカ
勝利と成ル此戦中万次郎鯨船ニ乗て見る
文武は稽古盛也刀鎗之遣イ方も有尤軍馬を修
共果す驢馬ろばもあれ共騏ハ日本之如き馬也
器物陶器なし硝子鍋之類也
醫書不開尤蘭國より少々醫者参り日本病ト云
有大熱病也療治不知水を桶ニ入病人を其水ニ
入しめ又ハ土中ニ冷して熱炎を冷す故ニ病ハ生者なし
西洋種痘何方も右アメリカ國ハ痘出れは痘を堀て除て療治
あり是にて人を損する事なし故に痘ニ不及ト云

鳥獸之体日本の如し虎象有獅子なし
大木良材多し一日中如くありあり
切支丹之類は彼國ニ而も大ニ忌よし
万次郎義アイツヘルニ従ひ又は独立ニ而も鯨船ニ乗世界を巡
事五度と也日本の沖江も四度迫り五度目奥州へ上陸
之志有之而も遂す日本商船に逢は二三桶遣ス事有
鯨六七百本取時は帰国し又餘國ニ是を賣或氷海ニ
至此海ニハ船の子舟ニ鋸を仕懸氷を割通行ス又氷
山海中ニ有此海中之鯨寒氣強故ニ^婦ふくして取安し
天竺之内ジャカウ^島坊國^島の上陸す大黒船も赤道直
下之國ニテ色黒き事鍋墨塗上げる如く也和蘭人常々
乗すけるは眞の黒坊にあらずと云此國食物はカシウ

鳥獸之体日本の如し虎象有獅子なし
大木良材多し日本之如きにはあらず
切支丹之類は彼國ニ而も大ニ忌よし
万次郎義アイツヘルニ従ひ又は独立ニ而も鯨船ニ乗世界を巡
事五度と也日本の沖江も四度迫り五度目奥州へ上陸
之志有之而も遂す日本商船に逢は二三桶遣ス事有
鯨六七百本取時は帰国し又餘國ニ是を賣或氷海ニ
至此海ニハ船の子舟ニ鋸を仕懸氷を割通行ス又氷
山海中ニ有此海中之鯨寒氣強故ニ^婦ふくして取安し
天竺之内ジャカウ^島坊國^島の上陸す大黒船も赤道直
下之國ニテ色黒き事鍋墨塗上げる如く也和蘭人常々
乗すけるは眞の黒坊にあらずと云此國食物はカシウ

虎右衛門も帰国して久しう虎右衛門も
帰国して久しう虎右衛門も
虎右衛門も帰国して久しう虎右衛門も
虎右衛門も帰国して久しう虎右衛門も
虎右衛門も帰国して久しう虎右衛門も
虎右衛門も帰国して久しう虎右衛門も
虎右衛門も帰国して久しう虎右衛門も
虎右衛門も帰国して久しう虎右衛門も
虎右衛門も帰国して久しう虎右衛門も
虎右衛門も帰国して久しう虎右衛門も

残りし虎右衛門へも何卒帰國可致旨文通す虎右衛門文も

帰國之筈如何しても帰國難成との存念二而八ッ國止ると云

万次郎アメリカニ有し時フイツヘル殊之外寵愛し学聞等も

能出来候ニ付往々は家相續の心巧ニて己か姪を縁組致

させ戻たる由万次郎フイツヘル又妻とすへき女甚た不便ニ

存候得共不得止事帰國之心切成へし八ッ國出帆之

節細く文に認め頼遣し候由けうに恋路の情尽ぬ体也

八ッ國より携へ来る道具又は琉球ニ而貰たる道具長持ニ

三ッ尤少成長持也世界の移る鏡世界の圖七枚 四枚ハ長崎
ニテ御取上也

アメリカニテ堀たる金物類数十卷日記アメリカニテ之

書付数通地里道具品々鉄炮三挺衣類右之内二而

長崎ニおゐて万次郎江御渡しし品蒲着衣類品々世界

[illegible]

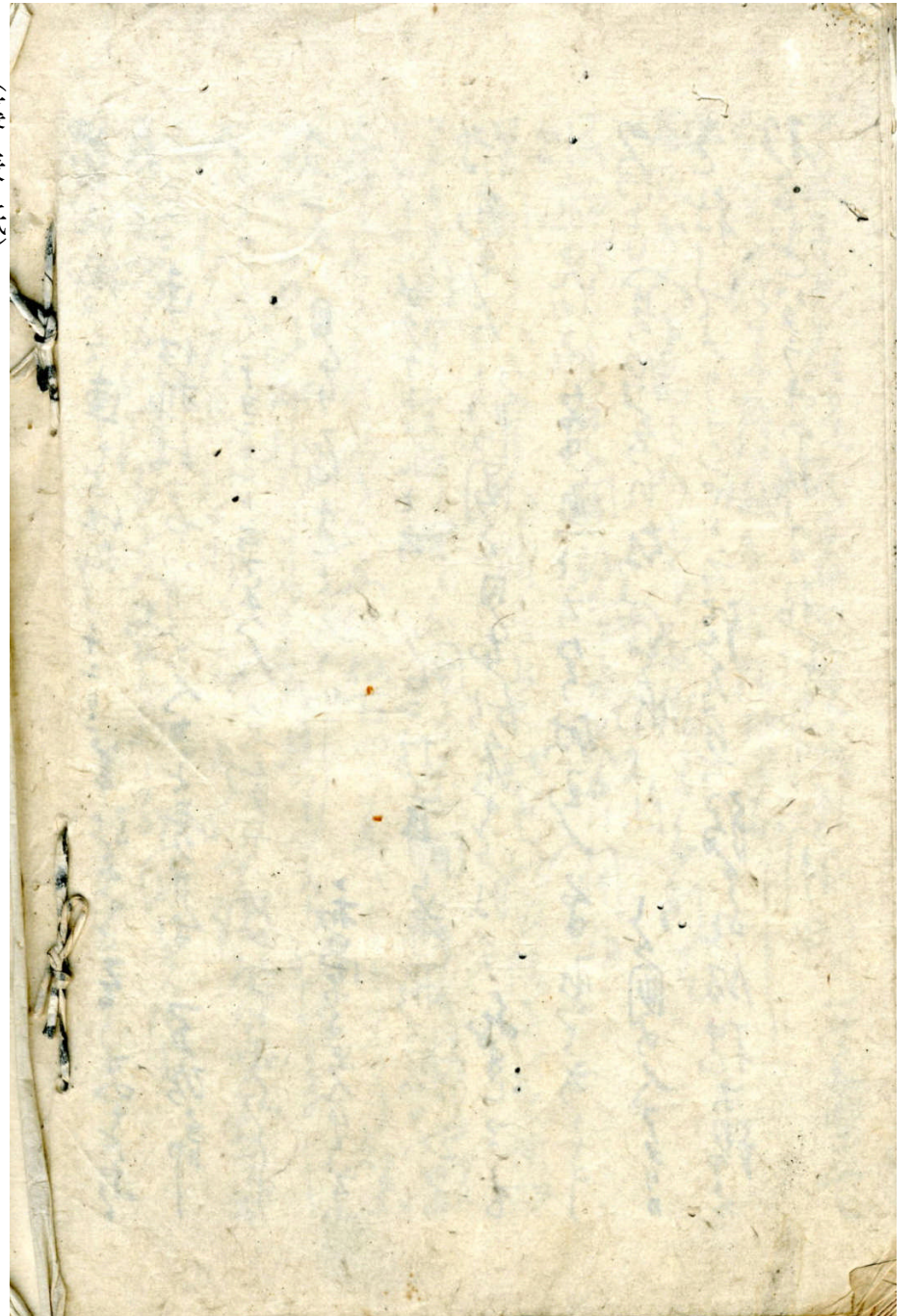
圖三枚鍋釜類煙艸少々此外猶有之候得共大略右之通
八ッ國アメリカも味噌醬油なし塩ニ味を付る　琉球
薩摩之御支配ニ成て月代扨して日本之姿と成申候
長崎にて揚屋入ニ成揚屋と申せ共賞成事ハ日々淨瑠
璃も来り此頃より次第に日本語を覚し候也
アメリカ國日本詩歌之類有又道中ニ而唱歌を謡ふ
事其文を和解スレハ事向ふ野山坂より恋しと思ふ人
タウン／＼来る目にハ泪を挾んで
八ッ國に日本人持大刀有是を以首を切由申傳勇の國也
五人の者へ見せたる式朱判寛永通寶ハ大坂之者以前流
されたる時持渡り候由也　此度紀昃之人八ッ國へ流され

宇佐浦より少々早く帰國して長崎奉行より度々由
以前浦賀へ渡来之船は全軍艦ニもあらず測量を
する船也子細ハ日本地測量の節又其は鯨船杯漂
流の節水薪を得ん事を願度より箸も容易ニ不相成
者人質ニ而も置可申義申合含候處日本人殊之外
ト云彼國は寛仁成而已ならず只今開けたる國から
中々他邦を伺ひあるなど決てなしと云 彼國をイギリス
人少々持居申交易之地とす アメリカ國王の居は
平地屋敷ニ而大石ニ而大城を構たる鴨夢なり 彼國府
の上大なる鏡も有数百里の中其鏡ニ移りて掌を見る如し

一度王たるもの隠居すれば隠居料を得て一生安樂也
官人等も往来權威を取扱決而なし
上品之人下品之人上下衣服二而分別す
民百姓たり共学問次第二而挙げ用ゆ
学問宜人は官人ニ非共上品の色の衣服を被免用ゆ
アメリカ國今最中開くる國二而学問年々精か也
舟中ニ色々之道具を入舟の何百里来りしといふ事知る
器也 万次郎携へ来る道具ニヤスリの類多し
又ハ樽屋道具の類も多し是船中諸道具を直ス云
居宅硝子の障子を入又敷物ハ羅紗を用ゆ

羅紗織に車を仕掛けチンリン羊の毛をそり夫を糸ニ
 引交るニ車仕掛のアヤツリニ而人力を費さす 万次郎
 アメリカニ而はチヨンコント云異人メエシタチ カンコント呼ふ事
 メエシタハ日本殿達と云か如し 和蘭に先生ト云ふ
 事をメグケトメルと云 クロン坊耳鼻脇ニ環ヲ入る
 傳藏五右衛門ハ八ッ國ニ而日本の名を改メス然れとも
 傳藏元の名筆丞と云今彼國人筆丞と云事
 如何といへ共得云す故ニ傳藏と改 八ッ國の人アメリカ
 を称してメリランヤト云諸道具鍋類飯櫃等錫ニ而
 子子をハタラキの拵たる様の物を用ゆ

羅紗織に車を仕掛けチンリン羊の毛をそり夫を糸ニ
 引交るニ車仕掛のアヤツリニ而人力を費さす 万次郎
 アメリカニ而はチヨンコント云異人メエシタチ カンコント呼ふ事
 メエシタハ日本殿達と云か如し 和蘭に先生ト云ふ
 事をメグケトメルと云 クロン坊耳鼻脇ニ環ヲ入る
 傳藏五右衛門ハ八ッ國ニ而日本の名を改メス然れとも
 傳藏元の名筆丞と云今彼國人筆丞と云事
 如何といへ共得云す故ニ傳藏と改 八ッ國の人アメリカ
 を称してメリランヤト云諸道具鍋類飯櫃等錫ニ而
 子子をハタラキの拵たる様の物を用ゆ



(裏表紙)

日高川町江川 森口彌四郎蔵

〔文久元年西年〕
(一八六一年)

魯夷對洲乱妨

江戸東禅寺夷人夜討

水戸表風聞」の中に綴じられていた

「船舶終夜雜問答」の中の一部、途中で書写終わっている。

註 賤称語と思われる言葉が含まれていますが、修正等を

加える事により資料としての価値を損ない、また歴史的
研究の資にすることを妨げることになるのを考慮し
原文のまま掲載しています。